



特集

# ミャンマーの成長と共に

## 三菱商事グループの総合力で挑む

経済開放と民主化で激動する国、ミャンマー。アジア最後のフロンティアとも呼ばれ、経済成長率は今後も7%台と高水準を維持すると予測されています。世界中の企業が注目するこの成長市場で、三菱商事グループは現在13の事業を展開し、次代の核となる新たなビジネスの創出にまい進しています。

©Tuomas Lehtinen / Shutterstock.com

©Richie Chan / PIXTA

©happystock / Shutterstock.com

### ASEANナンバー1の活況を、総合力で取り込む

三菱商事グループは、2011年にミャンマーが民政移管以降、マンダレー国際空港運営や建機レンタル事業、食品製造・流通事業など、現地の有力パートナーと協業しながら、多くの事業を展開しています。

2016年3月に、アウン・サン・スー・チー氏率いる国民民主連盟が政権を獲得したことで、同国における経済開放、民主化への動きは一気に加速し、それに伴い外国投資を呼び込むための法整備も進んでいます。

このような状況下、三菱商事グループは、次の成長の柱を育てるべく新たなビジネスの創造に注力しています。例えば、同国最大の都市、ヤンゴンの中心部で大規模都市開発「ヨーマ セントラル プロジェクト」を立ち上げたほか、病院運営会社を設立し、高度医療サービスの提供を目指しています。

ミャンマーではまた、次の成長の核となる事業をしっかりと育てていきます。例えば、ミャンマーの人々の生活水準向上に貢献する食品製造・流通事業、国内空港事業民営化、電力供給能力の向上を目指すインフラ事業などの展開を通じ、ミャンマーの経済発展と共に、三菱商事グループの成長につなげていきます。

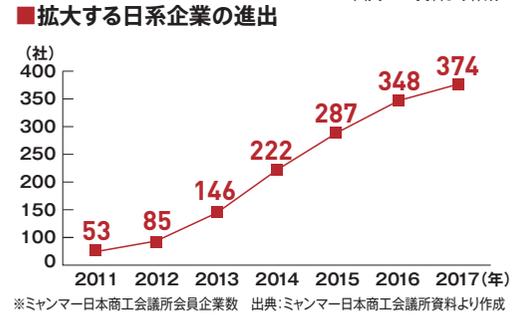
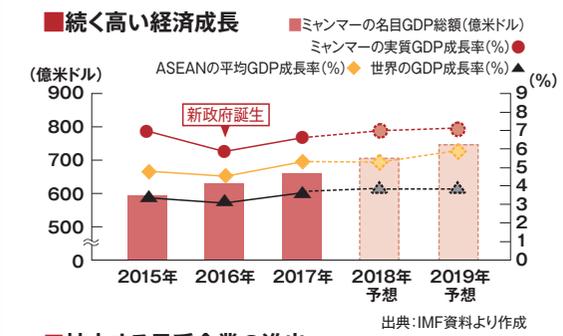
2018年1月には、ミャンマーを含む後発ASEAN 4カ国で関税が撤廃され、国内市場だけでなく、AEC (ASEAN経済共同体) という巨大市場をにらんだ事業展開も可能になりました。ミャンマーの大手企業グループのSPAグループやCDSG※など現地の優良パートナーとの協業はもちろん、三菱商事の各営業グループをまたいだ協業など、三菱商事グループの総合力を発揮してビジネスを推進し、同国の経済成長を着実に取り込みながら、中長期的視野で次の核となるビジネスを創出していきます。また、同国への経済的取組だけでなく、農業・文化を軸にした国際貢献活動を通じて、農民の貧困改善など社会課題の解決にも取り組んでいきます。

※Capital Diamond Star Group

上) 鉄道をはじめとしたヤンゴンのインフラは発展途上。日本国内で培ったインフラ整備のノウハウや不動産企業、鉄道会社など日本企業とのネットワークも活用しながら都市開発事業を推進し、ヤンゴンの街の近代化をサポートしていく

下) ティラワ工業団地の稼働状況を確認する三菱商事社員。同工業団地は三菱商事を含む総合商社3社と邦銀3行が加わり、日本側49%、ミャンマー側51%出資の合併企業が運営

### データで見る ミャンマーの成長





# 三菱商事グループの事業紹介

パートナーと共に、ミャンマーの発展に貢献する三菱商事グループのビジネスを紹介します。



「ヨーマ セントラル」完成予想図

## 都市開発事業

「ヨーマ セントラル プロジェクト」  
～「ヤンゴンの丸の内」を目指して

《新産業金融事業グループ》

ヤンゴン中心部で進む「ヨーマ セントラル プロジェクト」は、三菱商事が三菱地所、SPAグループなどと共に、これまでSPAグループがオフィスなどの建設・運営を行ってきた約4haの敷地を再開発し、オフィスや分譲住宅、ホテル、商業施設などを開発・運営する総事業費6億米ドル超の大規模都市開発プロジェクトです。

ヤンゴン中央駅前、ヤンゴンの中心街にありホテルや映画館、オフィスビルが立ち並び、そのさまはさながら東京・丸の内のような。この地で進む大規模開発は、建設だけでなく施設の完成後にも多くの雇用を生み出すことから、ミャンマー側からも大きな期待が寄せられています。ミャンマーの

都市開発事業  
(新産業金融事業グループ)

病院運営事業  
(生活産業グループ)

建設機械レンタル  
サービス事業  
(機械グループ)

食品製造及び  
食品流通事業  
(生活産業グループ)

エレベーター・エスカレーター事業  
(機械グループ)

工業団地造成・運営事業  
(新産業金融事業グループ)

タイヤ販売マーケティング事業  
(生活産業グループ)

三菱自動車製車両の輸入販売事業  
(機械グループ)

空港運営事業  
(地球環境・インフラ事業グループ)

いすゞ自動車製  
トラックの輸入販売事業  
(機械グループ)

空運事業  
(地球環境・インフラ事業グループ)

エレベーター・エスカレーター事業  
(機械グループ)

工業団地造成・運営事業  
(新産業金融事業グループ)

タイヤ販売マーケティング事業  
(生活産業グループ)

三菱自動車製車両の輸入販売事業  
(機械グループ)

空港運営事業  
(地球環境・インフラ事業グループ)

いすゞ自動車製  
トラックの輸入販売事業  
(機械グループ)

空運事業  
(地球環境・インフラ事業グループ)

エレベーター・エスカレーター事業  
(機械グループ)

工業団地造成・運営事業  
(新産業金融事業グループ)

タイヤ販売マーケティング事業  
(生活産業グループ)

マンダレー  
(第2の都市)

ネピドー  
(首都)



合同ミーティング  
でSPAグループ  
メンバーと今後の  
計画について  
話し合う



雨季の長いヤンゴンでは、大雨で作業の一時中断は日常茶飯事だが、緻密な計画を立て、スケジュールどおりかつ安全に作業を遂行中

発展を支えるランドマークプロジェクトとして、パートナー企業と共に前進していきます。

本プロジェクトをミャンマー開発への第一歩とし、今後はミャンマーを含むASEANなどの新興国を対象として、鉄道などの社会・交通インフラ整備と不動産開発を結び付けた「面」型の都市開発事業を推進していく予定です。



国内線7社、国際線7社  
が乗り入れるミャンマー  
第2の国際空港を運営



## 空港運営事業

### マンダレー国際空港の運営

《地球環境・インフラ事業グループ》

ミャンマー第2の国際空港、マンダレー国際空港は、三菱商事とJALUX、SPAグループ傘下のYOMA DEVELOPMENT GROUPの3社で設立したMC-Jalux Airport Servicesが運営しています。日本企業が民間資本100%で海外の空港運営を手掛けるのは、このプロジェクトが初。空港の補修改善・運営・維持管理に関わる30年間の事業権契約を結び、産業や観光の活性化で拡大するミャンマーの航空需要を支えています。当事業で蓄積したインフラプロジェクトの建設・事業運営のノウハウを活かし、新興国を中心に高まる航空需要にも応えていきます。



ミャンマー最大の社会課題である、貧困農民の生活レベル向上に貢献することを目的に、国際NGOオイスカへの支援を行っています。写真は、オイスカが取り組む農業技術指導の様子。



スキルとサービス向上に努め、お客様の信頼を獲得し、ミャンマーNo.1のエレベーターサービス会社を目指す

## エレベーター・エスカレーター事業

### MC Elevator (Myanmar)

《機械グループ》

三菱商事は2014年、SPAグループと共に、三菱電機製エレベーター・エスカレーターの販売・据付・保守を手掛けるMC Elevator (Myanmar) を設立しました。徹底した保守サービスで高品質ブランドのイメージを確立し、同国内でトップシェアを獲得しています。ミャンマーでは今後、2020年に向けて「ヨーマ セントラル プロジェクト」をはじめとする大規模都市開発案件が数多く計画されていることから、更なる成長が見込まれています。また三菱商事は、同国を代表する仏教寺院、シュエダゴン・パゴダにエレベーターを寄贈し、産業だけでなく文化面からも同国の発展を支えています。